

自然に恵まれた水

ぼくの家には昔から山から流れてくる山水があります。その水は夏は冷たく、冬は水道水より温かい、とてもおいしい水です。だから小さいころから水がおいしくて当たり前のように毎日飲んでいました。ある日出かけた時に入った、お店の水がいつも飲んでいる水とは違った味がしてたのでまだ小さかった頃はお店の人に、

「何か変な味するー。山水入れてー。」
と言ったそうです。今思えばとても失礼な事を言ってしまったなあと思いました。

今でも山水はとても役に立っています。なぜかという、ぼくの家には池があり、こいを飼っています。山水を入れていきます。きれいな水を使ってるからこそ、こいは元気に生きられるのだと思います。それと食べ物も水がとても必要だと思います。ご飯も水がきれ

天川村立洞川中学校 一年

奥村 亮太

いだったらおいしいし、特にぼくの家ではおじいちゃんや畑をしています。おいしい水だからこそ、野菜がおいしく育ち、おいしい野菜ができるので水はとて必要だと思います。

先日テレビを見てみるとアフリカで生活をしている人達は茶色くなった水を飲み、またそれで体を洗ったりする生活をしていました。そこで一人の日本人が井戸をほって井戸を作ったあげていました。それはとてもすばらしい事で多くの住民の人達が生活の水として、きれいな水を使えるようになったのです。日本ではすき通った水がじゃ口をひねれば出てきます。それはぼくにとって当たり前の生活ですが、マラウイ共和国では、人口の三十五パーセントの人が川やみずうみ、井戸とも呼べないほどの地下水を飲み水として利用しています。不衛生な水は感染症や伝染病になり

やすく、マラウイの子は五才になるときに十八パーセントが命を落としていそうです。その日本人は「かおさ掘り」といつて人の力で百メートル程掘る事ができて竹を使って七メートルのやぐらを使い三本の大きな丸太を使って、ねん土を入れた水を入れて掘り、鉄管を中に入れ、ぶれないようにタイヤのチューブを利用して土を掘りやすくします。三週間その作業をくり返すと、ようやく井戸水が出てきました。そのしゅん間、作業をしていた人達がいつせいに

「おー。」とさけんで泣いて喜びました。ぼくも思わず感動しました。その一つの井戸水が多くの人達が生活をしていくためにとでも役立ちます。この事を知って水で苦しむ人達は世の中にはいっぱいいるんだなあと思いました。このぼく達が住んでいる洞川は水がきれいで豊富なのでいつの間にか、おいしい水が飲める事がとうぜんのようになっていました。ぼくは昼と夜には毎日水を飲みます。のどがかわくしとてもおいしいので水は大事です。世界には水を飲めない国もいっぱいあるので、水を一

てき、一てきとても大事にしたいです。これからも水を大切にしていきたいです。